

# ホタテガイの害敵防除試験—I

(ムラサキイガイの付着時期)

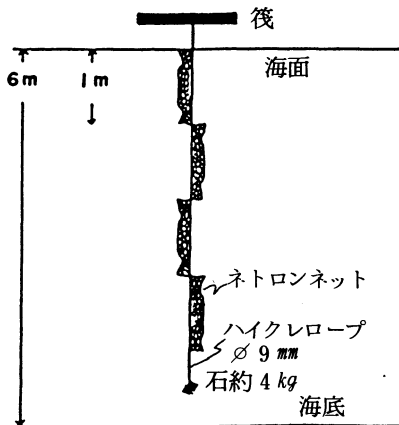
田中 俊輔

## はじめに

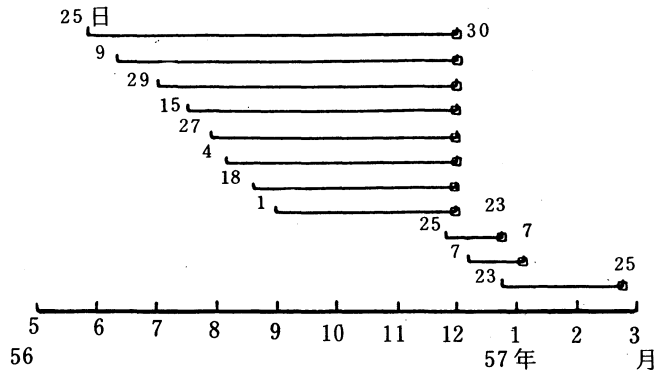
近年耳づり養殖が盛んになってきたが、養殖中のホタテガイの付着物に関しては、豊島岩一が平内町浦田地先におけるムラサキイガイ他の付着時期および水深について報告している<sup>1)</sup>。ここではセンター前試験筏に定期的に設置した採苗器に付着したムラサキイガイの付着時期と付着個数を調査したのでその概略を述べる。

## 材料と方法

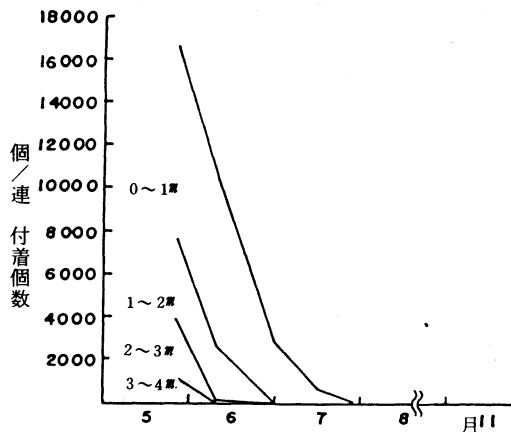
1. 調査期間：第1回付着調査；昭和56年5月25日～56年11月30日、第2回付着調査；昭和56年11月25日～57年1月25日
2. 調査項目：ムラサキイガイの付着終了時期および水深別付着個数
3. 調査場所：青森県水産増殖センター試験筏(水深6m)
4. 方法：第1回試験は5月25日から2～3週間ごとに当所前の試験筏にムラサキイガイ採苗器(第1図)を設置し(第2図)、全ての採苗器を11月30日に取り揚げて付着個数を計数した。第2回試験も第1回と同じ構造の採苗器を11月25日から12月23日までの間に3回にわたって設置し、それぞれを1～2ヶ月後に取り揚げて付着個数を計数した。



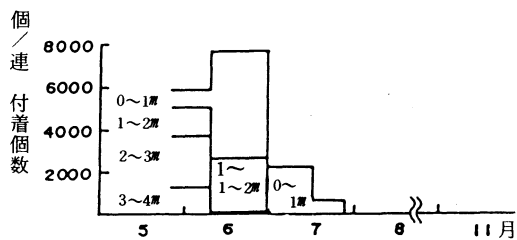
第1図 採苗器垂下状況



第2図 採苗器垂下期間と取り揚げ月日  
□；取り揚げ月日



第3図 垂下開始時期別積算付着個数



第4図 垂下開始時期別付着個数

## 結果の要約

### 第1回調査

11月30日に取り揚げた全ての採苗器の付着物は1.5分目フルイで選別後ムラサキガイを計数した。時期別、水深別の付着個数を第3図に示す。第3図に示すように期間中を通じて水深別ムラサキガイ付着個数は0~1m層に、付着総個数(30,996個)の66.3%にあたる20,531個、1~2m層に23.2%(9,562個)、2~3m層に7.2%(2,970個)、3~4m層に4.9%(2,024個)で下層付着数が少なかった。全ての採苗器を同時に取り揚げたので、早く設置した採苗器には垂下期間中のムラサキガイが積算されて付着したと思われる、それぞれの期間内に付着したと思われる個数は、第4図に示したように6月9日~6月29日に全付着数(16,695個体)の46.5%(7,754個体)が付着し、7月27日以後に設置した採苗器には付着がみられなかった。

### 第2回調査

56年11月25日から2~3週間ごとに採苗器を設置し、1ヶ月後に取り上げて付着物をブラシで洗浄後観察したがムラサキガイの付着はみられなかった。

以上の調査はホタテガイ養殖漁場とはなれた青森県水産増殖センター前の筏で実施したことや、付着の年変動も考えられるのでさらに現場で検討したい。

## 参考文献

- 1) 豊島岩一：垂下養殖ホタテガイの付着生物調査、第16回青森県漁村青壮年婦人活動実績発表大会、昭和50年1月、52~55頁